

第33回

戦国肥後国衆まつり

準備・リハーサル

和水町では町内外から多くの来場者で賑わう戦国肥後国衆まつりが開催される。
2月14日の本番までに、企画実行委員や多くのスタッフに支えられ、当日を迎えることができる。
私たち取材班は普段目に見えない舞台裏や当日までの準備やリハーサルを密着取材した。

矢旗立て



1月23日(土)企画委員及び職員で会場内に27本の矢旗立てが行われた。会場は一気に戦国時代の雰囲気へと変わった。

和仁五人衆 1月下旬



▲和仁五人衆の練習風景

毎年この時期になると、毎週和仁東集会所で練習が重ねられる。和仁五人衆は浜武映次さん(下吉地)、高島努さん(和仁)、小山亮さん(下吉地)、大久保勝博さん(和仁)、真健一さん(上吉地)の五人のメンバーで結成されている。練習風景は本番さながらの迫力ある演技に圧倒させられた。また、大友宗麟役に今村浩史さん(中岩)、ナレーターに小山美佐子さん(和仁)、南蛮娘役に高幣奈津美さん(玉東町)も加わった練習が続いた。

青年団のわか練習



▲練習にも熱が入ります

1月に入り仕事が終わって三和公民館で毎日のように練習を重ねた。出演者は団長の釘崎隆充さん(中岩)、真崎辰則さん(下津田)、庄山桂太郎さん(下津原中)、江上希さん(藤田)の5人で、うち2人が初めてにわか劇を演じる。普段使わない肥後弁に悪戦苦闘し、立ち振舞いやそれぞれの動きを作り上げていく。また当日は大観衆の前でマイクはあるものの、ゆっくり大きな声で話す練習も必要だ。出演者はもちろん、周りの青年団も一丸となってわかを完成させていた。





本番を翌日に控え、本会場での最終リハーサルが行われた。立ち位置の確認や、戦う相手は誰とで会場をどのように使うのかなど、職員より指導があり、参加者は何度も練習し本番に備えていた。
このように、本番を迎えるまでにはたく



さんの実行委員や職員の協力により成り立っている。また、祭りを盛り上げ、来場者に楽しんで帰っていただくにはと職員の間並ならぬ努力があり「また来年も来ようね！」と語っていた。ただ、来年も来ようね！と担当者は話していた。



▲たくさんのもちができました

紅白餅投げ用のもちつきが2月10日(水)三加和公民館で行われた。60kgのもち米を使い、経済課職員や町職員の手で丸められていた。

もちつき

リハーサル(2月13日)

▲一揆の再現の練習風景



▲本番前の着付け風景

当日



▲本番前のメイク風景



▲子ども修羅レース説明風景